

「 第38回若葉カップ ～今年は男子だぁ～ 」

6年生がいないチームで3回戦進出、9位は素晴らしいことです。

また、新型コロナウイルス感染者が出て棄権するチームが出る中で最後まで戦えたことも素晴らしいことです。

ちょっと前までのチームは、若葉カップに出場することだけを目標にしていました。最近のチームは、全国で勝つことを目標にしています。

そんな雰囲気から開会式の前から現地に入ることを当たり前とっていただけるようになりました。この1日が選手にとっては大きいのです。

前日に大会会場を下見して打てることでとても落ち着きます。

数年前から保護者会で手を尽くして練習用体育館を取ってくれています。

打ちたいだけ打てる環境を作っていただいて、現地に入ってから選手は、上手くなっています。

昔は、調整程度しか打てる時間とコートが取れませんでした。

キャプテンたいち、福？副？キャプテンはやた、応援団長こう、と役職も決まり3日も経つとキャプテンの指示で動けるようになりました。

試合は、ドキドキです。緊張しているのが背中からも伝わって来ました。

2試合戦って9名全員出ることができました。

最後は、戦力不足が否めず負けましたが、選手たちはあきらめずシャトルを追い続けました。

感動！感動！

戦い終わって全員が「来年もまたぜったい来る」と誓っていました。

「オリンピックのかりは、オリンピックでしか返せない」という言葉がありますが「若葉カップのかりは、若葉カップでしか返せない」がんばれとこジュニ戦士たち。

大会中に誰も発熱しなかったのは、幸運のカメ🐢のお陰です。

全国小学生連盟、京都府小学生連盟、長岡京市の皆様、新型コロナウイルス感染者が急増する中、大会を開催して下さったことに感謝します。